

隆照寺の風

令和七年五月
第150号 菖蒲会

牡丹華の候 今月の下旬より来月の中旬にかけて恒例「葛飾菖蒲まつり」が堀切菖蒲園（水元公園と）で催されます。

また菖蒲の名勝地に因み、菖蒲会（あやめえ）と名づけて毎年本堂へ集い営んで参りました総永代経法要も、縁睦ましい皆さまのご参拝をお迎えしてお勤めさせて頂きます。

「永代経」は、子子孫孫にお経（お釈迦さまが説かれた教え）が相続されるという事です。お経には仏の境地へ至る道が説かれています。浄土真宗は、極楽浄土の主が南无阿彌陀佛となり私の心に飛び込んで、称える声の念仏にすがたをあらわしなされる教えです。

私の心に宿り私の声と現る南无阿彌陀佛は、私の行方を極楽浄土と定め、命ある限り共に

歩み、息絶えるその時には直ちに苦しみから解放して下さい。仏さまです。

この教えは、『仏説無量寿経』というお経に収められています。ことさらに注目したいのは「設有大火充滿三千大千世界要当過此聞是經法：若有衆生聞此經者於無上道終不退轉：当来之世經道滅尽我以慈悲哀愍特留此經止住百歳」というお経のグランドフィナーレ。

私訳すれば「たとえこの世界が苦しみの炎で燃え盛ろうとも、すべての功德をそなえた南无阿彌陀佛があなたに辿り着き救済する。あなたがいつ、どこにいても助けられるよう、この教えが末代にまで伝わるようにする」という説示です。いまここで私がお経に遇えたのは、すべてが仏さまのしわざであり、そして仏さまとの縁を取り継いでくださった、先輩がたのおかげさまでありました。

菖蒲会

(あやめえ) 総永代経法要

隆照寺では、かねてより花菖蒲の咲き揃う季節に永代経を勤めて参りました。永代経はお経の相続を願って勤まる仏事です。皆さんが、親戚やご縁の方と営む一周忌や三回忌も「永代経」なんです。いったい何が違うのか？「総永代経」は、年忌をなさった方々は勿論、故あってなさらなかった方や、或いは後継なく仏事がなされなかった方まで含めて、隆照寺と縁を結ぶ総てのあらゆる方々を対象とした、寺が主催する追悼法要なのです。

家に後継の方が無くとも心配はいりません。お釈迦さまが「当来の世に仏道が滅ぶとも、南无阿彌陀佛は久しく留まり聞く者を利益する」と予見された通り、誰も彼も去り往きとうとう、無縁のいのちになろうとも、決して私を見捨てぬ仏さまの温もりがあります。

隆照寺
本堂
(堀切^{にて})

6月1日(日)14時^{より}

墓苑
対面所
(志津^{にて})

5月18日(日)14時^{より}

総永代経法要に納めてくださる懇志(お布施)は、尊前にお供えして施主名を奉読申し上げますので、法要がはじまる前までにお納めください。

親鸞聖人のお誕生日(降誕会)

平安末の承安三(一二七三)年、聖人は洛南・日野の里に生れました。おかしは、元旦にみな揃って齢を重ねたので誕生日はあやふや。聖人の生日は高田派の伝に記された四月朔日に因み、明治の改暦によって5月21日と定まり大正期、龍谷大学で降誕会の祭典が始まったようです。

父は藤原氏の流れをくむ日野有範、母は源氏の出身・吉光女と伝えられています。藤原氏はそもその神代、岩戸に隠れた天照を祝詞で出迎えた春日権現の末裔です。春日の一流は中臣と称し、大化の改新のてがらを誉められて鎌足が藤原の姓を賜り、子の不比等を経て、奈良時代に四分した藤原のうちの北家(房前)につらなる、真楯―内膳―真夏―浜雄―家宗―弘蔭―繁時―輔道―有国―資業―実綱―有信―宗光―経尹―有範―範宴(親鸞)という系譜が、聖人の曾孫・覚如上人の伝記に示されています。

本来であれば、老齢に至り白髪を蓄えては朝廷に仕え、上皇の御所に参勤して栄華を開くべき身の上であったの



だろうけど、それをさし置いても、前世からの因縁で既に決まっていた大事なお仕事があったと、伝記は云います。そしてそのお仕事こそ、人々を成仏へ導くことでした。

お仕事の肝心かなめは、40代ころ、茨城県で草稿を完成させてから京都での晩年に至るまで筆を加えて、校正を重ねられたライフワーク『教行信証』にあらわです。



簡潔に申し上げると、阿弥陀さまが48の願いで極楽浄土を建設し、南无阿彌陀佛の六字となつて、いつへも、どこへでも趣き、声にすがたを示して「そのまますくう」とはたらく大事が、とくに第18の願に誓われていると、經典や論文を引いて証明されます。

このようになってからを立てる事が、生まれる前からとくに決まっていたというのは、そもそも「仏さまが、仏さまのすまいから、わざわざ人のすがたに化現して、娑婆の世界まで出向かれる」という考え方によります。すなわち、「生れによって尊卑を判じるのではなく、行いによって人の価値は定まる」というお釈迦さまの教えに通じます。

なお18願の遣いとして、**十八公**の三字を組んだ松をもちい、幼名を「松若丸」と呼び慕っています。



隆照寺墓苑 管理寺務所 からのお知らせ

・墓前への供花や供物などは、なるべくご使用されているご自身で片づけなすってください。
特に食べ物などはカラス達が狙っているので、しばらく供えたら下ろして持ち帰りましょう。
傷んで腐っても放置されるのは悲しいです。

墓所使用にかかる年間の費用は、金融機関からも送れます。※これまでどおり寺務所でも受け付けます。

ご送金の宛先

【郵便振替による場合】

記号・番号

10020-51619261

リウシヨウジ

【銀行振込による場合】

ゆうちょ銀行

〇〇八店(008)

普通5161926

リウシヨウジ

・手数料はご負担を願います

お受けした金額は所定の年額で割り、過去の分から順に受領して後日に証書を郵送致します。

・墓所のなかで草木が伸び放題になり、近隣へ侵出している状態がちらほらと見えます。

個別にも連絡しておりますが、墓所はご使用されているご自身で、近隣へもご配慮のうえ、お手入れをなさって下さい。

寺務所は9時から16時まで開いています。

水曜日はお休みです。

5月	7日	14日	21日	28日
6月	4日	11日	18日	25日
7月	2日	9日	16日	23日
				30日

休所日は墓地北側の駐車場をご利用ください。

お葬式や仏事のお問い合わせ、お墓などのご相談は

所長 山本 浩まで 043(462)5544

令和七年4月30日 発行

発行者



浄土真宗 本願寺派

大徳山 隆照寺

住職 小柴 隆幸